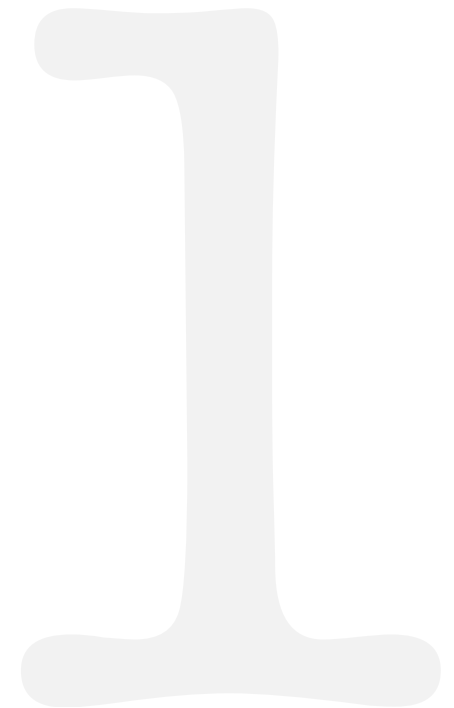


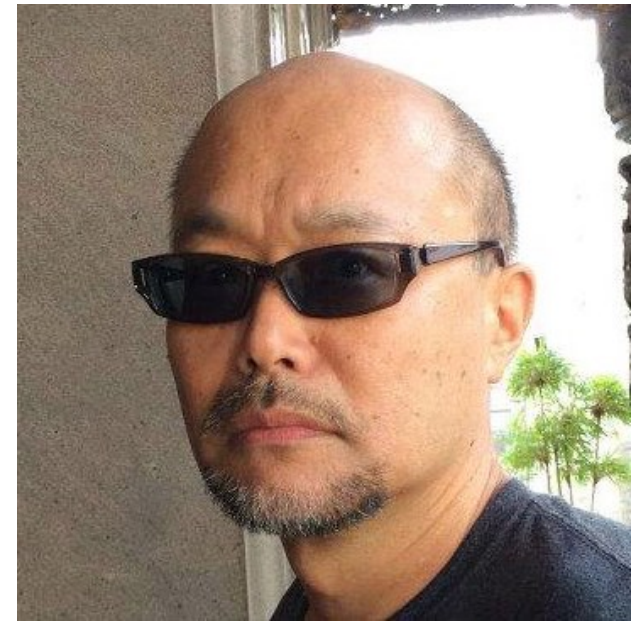
コロナ時代の愛、あるいは「いちばん大切な人と最も距離をとらなければならない時代の哲学」について

El amor en los tiempos del corona, ó filosofía que ordena mas lejos entre mas amoros@s



講師自己紹介

- 1956年6月16日 - 大阪市北区の大阪北通信病院(現在廃院)で生まれる。
- 1969年3月 - 吹田市立第二小学校を卒業[要出典]。
- 1970年3月～9月 - 大阪府吹田市で開催された日本万国博覧会（大阪万博, EXPO70に地元民の中学生に夥しい回数をもって訪問し、往時の「科学技術信仰」に心酔する。
- 1972年3月 - 吹田市立第六中学校を卒業。
- 1972年4月 - 大阪府立春日丘高等学校普通科に入学、1975年3月同校を卒業。
- 1980年3月 - 鹿児島大学理学部生物学科卒業。
- 1982年 - 大阪大学大学院医学研究科医科学修士課程修了。
- 1983年-1987年 - 国際協力事業団（現国際協力機構）（JICA）青年海外協力隊（JOCV）隊員として中央アメリカのホンジュラス共和国保健省に派遣される。
- 1989年 - 大阪大学大学院医学研究科博士課程社会医学専攻を単位取得済退学。大阪大学大学院では中川米造[3]教授が指導教官であった。
- 1987年～2006年 - ホンジュラスから帰国（1987年）後は大学院を単位取得済退学し、1989-1991年日本学術振興会特別研究員（国立民族学博物館外来研究員——指導教官は吉田集而教授）を歴任する。1992-1994年東日本学園大学＝現北海道医療大学教養部助教授、1994-2000年熊本大学文学部助教授（文化人類学→文化表象学教室）、2002-2006年熊本大学大学院社会文化科学研究科教授・併任（文化政策論専攻）2000-2006年同教授 [2005年度は兼任で本務は大阪大学へ]（2004-2005年同学部地域科学科長・併任）、を歴任する。
- 2005年～2016年6月末 - 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）・臨床部門・教授。
- 2015年8月末～2016年6月末 - 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）・センター長。
- 2016年7月～現在 - 大阪大学COデザインセンター・社会イノベーション部門教授。COデザインセンター副センター長
- 2020年4月 - 大阪大学COデザインセンター長に就任。



大阪大学COデザインセンター の紹介



Center for the Study of CO*Design

Osaka University

- 大阪大学 COデザインセンターは、学部高学年つまり3年生以上の学生、研究科の大学院生ならびに科目等履修生などの社会人むけに学内の共通教育である「高度教養教育」を行なう組織です。2016年7月に設立されましたので、今年で創設4年目になります。
- その設置の目的は、異なる領域の人と知識をつなぎ、社会課題の解決や新たな価値の創造に向けて専門的知識を役立てることのできる高度汎用力（課題発見力、課題解決力、社会実践力）を備えた人材を養成することです。
- COデザインセンター長が任期中（2020年4月～2022年3月）までに行う改革のポリシーは「新型コロナウイルスと私たちのキャンパス」をウェブで公開しています。

Center for the Study of CO*Design

Osaka University

- 具体的には、社会への幅広い関心と課題発見のための多様なスキルを学ぶ横断型高度教養・高度汎用力基礎教育プログラム「コミュニケーションデザイン科目」、Problem-Based Learning (PBL)も含む高度汎用力発展科目「COデザイン科目」からなりたつ科目を全学生に提供しています。
- また、兼任教員を通して「超域イノベーション博士課程プログラム」のコースワークの立案ならびに運営も担当しております。また、一般の大学では教養部や一般教育部に相当する大阪大学全学教育推進機構において、各部署や研究所等から提供されている高度副プログラム、高度副専攻、科目等履修生高度副プログラムを取りまとめ認証するための横断型教育部門の管理運営にも携わっています。
- 現在17名の常勤の教員、8名の非常勤教員と研究員4名の事務職員がセンター内で3つの部門すなわち「学術融合部門・共創デザイン部門・社会イノベーション部門」で働いています。

Center for the Study of CO*Design

Osaka University

- 大学の機能は、教育、研究、社会連携の3つです。社会連携は、本学では「産学共創」という独自の言葉がありますが、本センターでの活動は、広く社会のさまざまなセクターとリンクージュするアウトリーチすなわち社会連携という名称のほうがよりふさわしいと私たちは思います。
- 教育については、3つのステップ、7つの術（アーツ）、3つのコースのキーワードで覚えていただければと思います。
- 研究では、学生・大学院生のイノベーティブな能力を育てる高度汎用力、コミュニケーションデザイン、社会イノベーションの具体的な方策などの研究をおこなっています。
- 社会連携では、教員と教室が社会の外にでていくアウトリーチ、社会のなかでさまざまな活動をしている団体＝アクター間の連携のための媒介活動、その中に産学共創というものを含めております。

この講演の中心テーマは「ポストコロナ社会にどう向き合うか」についてです。そのため
の処方箋は、国連のSDGsが掲げる17の個別
目標にもつながって／つなげなければならな
りません。



この講演の含意

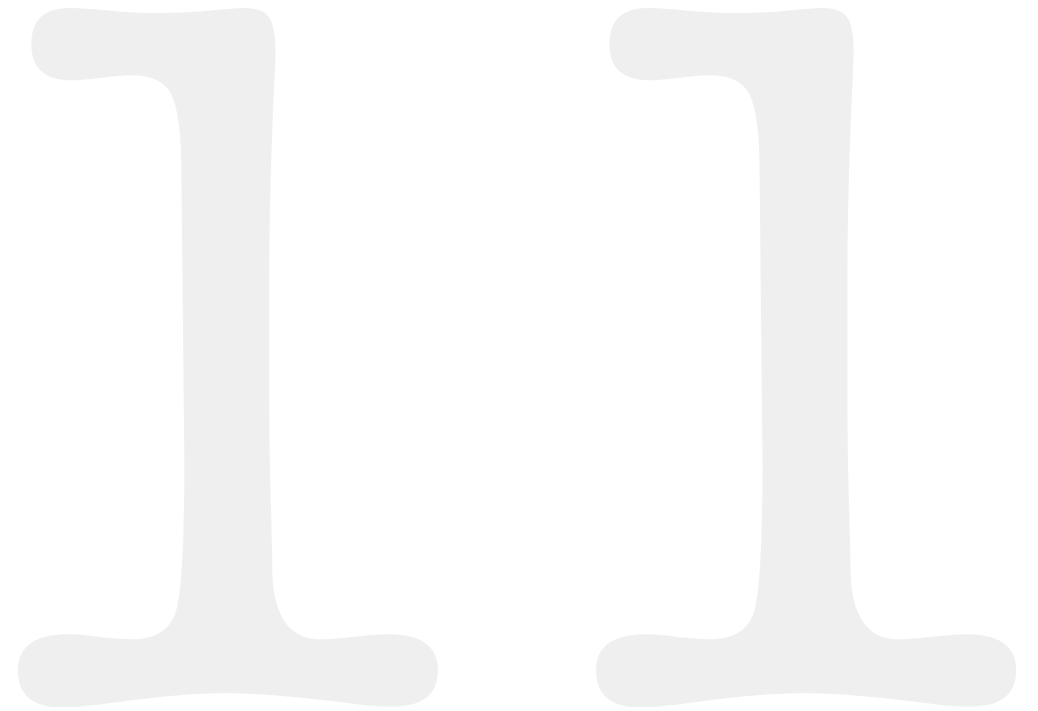
- 感染症の原語は“communicable/contagious/infectious disease”であるがcommunicate はラテン語の動詞 communicare つまり「シェアすること」につながります。SARS-CoV-2 (severe acute respiratory syndrome coronavirus 2)をお互いにシェアした結果のパンデミック（世界流行）です。そしてそれは本公演のテーマである**コミュニケーションデザインの思想**にもつながります。したがって、現今のコロナパンデミックは、ウイルスにとっては慶賀すべきこと。他方、その共生相手の人間にとっては災厄となっていること。この**非対称性**を理解しないとなりません。

コロナ禍では社会のさまざま
な問題が浮き彫りに…



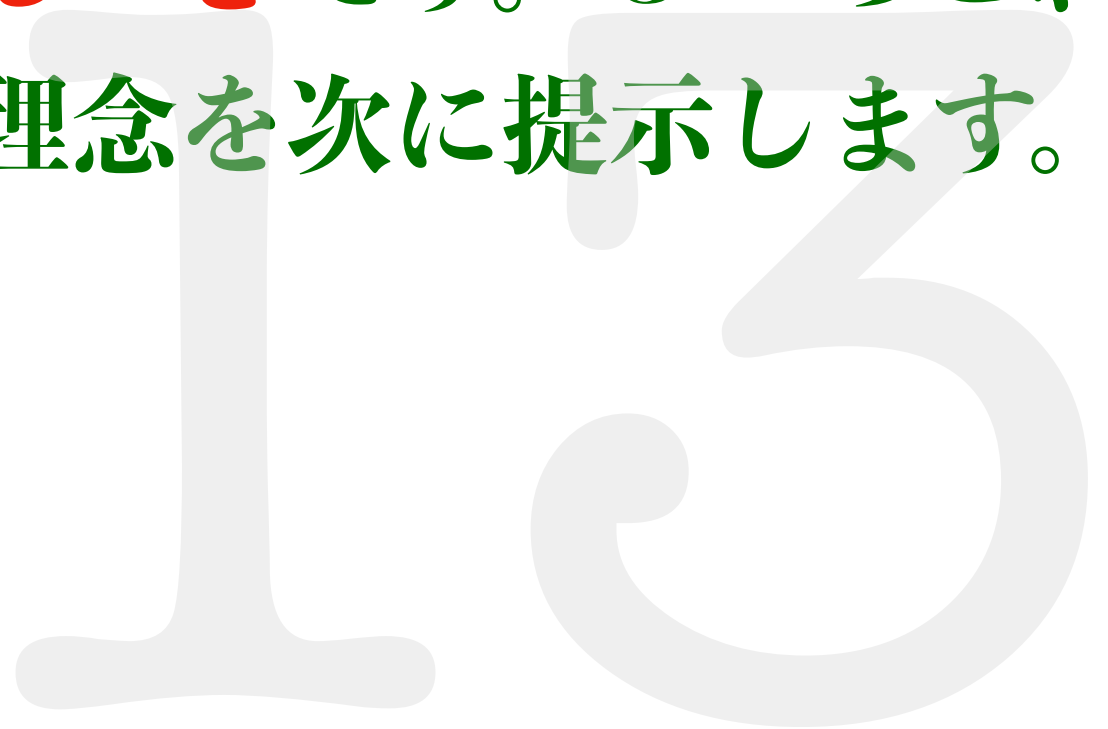
健康や医療、ライフサイエンスに関わる
情報や知識の不均衡から、不安や不信、
恐怖や混乱、噂やデマ、間違った予防
や、ひどい時にはコロナウイルスは某国
の陰謀だという風評を吹聴する自称専門
家が跋扈することになりました

それに対してどのように対処し
ていけばいいのでしょうか？



よくある処方せんは「もっと正確な知識を!」でありますけど、知識などはインターネットでいくらでも手に入りますが、正確な知識のとなりに不正確な扇動が併置されていることがより重要な問題です。

真の科学的判断力を育ち育むためには、
現在の学校教育における知識の詰め込み
や教師の言うことを聞くことをよい児
童・生徒・学生だと考える**今までのやり**
方を根本的に改めるべきです。3つのこれ
からの未来教育の理念を次に提示します。



それは、1.自分自身で学ぶ豊かな
教養力、2.対話コミュニケーション
力、そして、3.知識を現実化する
ための実践デザイン力です。

14

1.自分自身で学ぶ豊かな教養力



2.対話コミュニケーション力



3.知識を現実化するための 実践デザイン力



われわれの取り組み

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」
- 全世界の人がアイデアを自由に交換できるための民主的な地球社会のつくること
- ひとりひとりの人間とそれを育む地球環境を大切する地球主義や人間主義の洗練化
- 人間集団のあいだのコンフリクトの原因解明と原因解消策のアイデアがひとりひとり取り組める地域社会の実現



いつまでコロナと戦うのでしょうか？
—そして、それに対する答えは……

19

「いのちの続く限りだ!」

- Florentino Ariza tenía la respuesta preparada desde hacía cincuenta y tres años, siete meses y once días con sus noches.
- -Toda la vida --dijo



*El amor en los tiempos del corona, ó filosofía que
ordena mas lejos entre mas amoro@s*

ご静聴ありがとうございました



21
Fin

